

令和3年度 横浜市立桂小学校 「交通バリアフリー教室」の実施報告

はじめに

- 横浜市都市整備局では、福祉の視点からバスへの関心を啓発し、利用を促進するため「交通バリアフリー教室」を行っています。桂小学校では、横浜市営バスと連携して実施しました。
- 桂小学校は、東急田園都市線 青葉台駅から約 1.6km 離れたところに立地しており、周辺は住宅街となっています。学校の近くには、「松風台前」や「公園前」などのバス停があります。

1 交通バリアフリー教室の全体概要

- 交通バリアフリー教室は、横浜市都市整備局が担当する①「バスのバリアフリーに関する座学」とともに、横浜市交通局が担当する②「高齢者体験及び車いすの利用・介助体験」をクラスごとに行いました。
- ①の座学においては、**バスやタクシーのバリアフリーの機能や導入台数などの現状や、モビリティマネジメントの大切さ等**、様々な“知識”を伝えました。
- 横浜市交通局による体験授業においては、バス車両を用いて、バスのバリアフリーの他、バスの乗り方や交通安全など、バスに係る様々なことを学びました。



バリアフリー体験の様子



車いす体験の様子

- 交通バリアフリー教室について
- 【日時】 令和3年 10月21日(木)
3~4校時(10:45~12:15)
- 【対象】 横浜市立桂小学校
5年生 1~2組(64名)
- 【内容】
 - ①バスのバリアフリーに関する座学
 - ②高齢者体験、車いす体験→クラスごとに分かれて実施

学校近くのバス停



2 「バスのバリアフリーに関する座学」の内容

- 座学では、『もっと知ってほしい「バス」のこと』と題して、車いすの方もお年寄りも、「誰もが使いやすい」を目指して取り組んできたバスのバリアフリーや、同じ公共交通機関であるタクシーのバリアフリーの車両について説明しました。
- 様々な事業者のバス路線が多い青葉区では、バスが身近な乗り物と感じている児童も多く、日常的にバスを使う児童もいました。
- また、バスの利用者が減少や公共交通の取り巻く現状を伝え、「このまま利用者が減ってしまうとバスが将来、無くなってしまう」可能性もあることを、マンガリーフレットを用いて伝えました。
- 今後は「便利なクルマに頼りすぎず、バスで行ける所はバスで行くこと」を日頃から心掛け、家族や友人などと少しずつ実践してほしいことを伝え、授業を終えました。

おわりに

- 今年度はパラリンピックもあったことから児童も関心をもって取り組んでいるようでした。
- 交通バリアフリー教室を経験して、**車いすで移動することの大変さ**とともに、**移動の介助の難しさ**を肌にした児童がたくさんいました。
- 今回のバリアフリー教室により、子どもたちがバスへの関心を持ち、**これからもバスを上手に使い、またバスで困っている人をサポートするきっかけ**となってほしいと思います。
- また、実際の“体験”を行うことで、これからの生活の中で「活かした知識」として子どもたちに根付くことを期待します。

■ 座学に用いた教材

① 説明用パワーポイント:

もっと知ってほしい「バス」のこと



② 小学生向けマンガリーフレット

